

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより

平成 29 年度 第 4 号 12 月 20 日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp>

進路指導部から

進路指導部長 西 島 智 子



夏休みを挟んで事前訪問から始まった各学年の現場実習も、新篠津村はじめ近隣地域の事業所の御協力を得て、今年も無事に終了することができましたこと感謝いたします。事業所からは実習を心待ちにいただき、地域に学校の存在が根付いていることをうれしく感じます。また、実習期間中、保護者の皆様からは生徒たちに日々励ましなどいただきありがとうございました。

さて、3年生の進路決定も大詰めとなってきました。私たちは、卒業生のお話を聞く場面も多くあります。その中でよく聞く悩みに、「生活（リズム）が不安定」「相談できないで困っていることを一人で抱え込んでいる」ことがあります。小さなことが積み重なり、進路先でトラブルになることも少なくありません。学校が相談に乗って解決の糸口となることも多いですが、しかし、本人にとって相談しやすく、身近で社会人の良き見本となるのは御家族になります。新生活を迎える時期は親子共々大変ではありますが、どうぞ背中をそっと支え、頑張っていることを褒め、「社会人としてのマナー」や仕事をする喜び、厳しさなどを話題にいただき、学生から社会人への自覚や自信につなげられるよう御協力をお願いいたします。また、離れて暮らす場合も、つながりを感じられることが励みになります。親子でのコミュニケーションも、より一層大切にしていきたいと思っております。

1、2年生につきましては、冬休み明けに進路希望調査の提出があります。これを機会に、親子で将来をイメージして話題にしてください。休み中外出も多いと思っております。外で働く人たちを、意識して観察するのも良いのではないのでしょうか。

在校生、卒業生共に、進路決定と社会人生活を支えていくために、今後とも保護者、地域と協力体制をもちながら進めていきたいと思っております。

現場実習

* 第 1 学年 *

進路指導部 富 山 聖 子

1学年は9月7日～9月14日の6日間、現場実習を行いました。村内や岩見沢にある14箇所の企業などに御協力をいただき、品出し、清掃、商品の組み立て、ペンキ塗り、クリーニング業務などの仕事に取り組みました。始めは緊張した表情でしたが、1日ごとに仕事を覚え、良い表情で作業に取り組んでいました。3日目頃には疲れが出てきた様子でしたが、全員休まずに実習を終えることができました。実習を通して「毎日働ける体力をつける」「気持ちの良い返事や挨拶をする」「効率よく作業を行う」など、自分の課題を確認することができました。たくさんの御協力ありがとうございました。



* 第2学年 *

進路指導部 佐藤 治 人

学校からの引率実習に30名、自宅からの単独実習に13名の生徒がそれぞれの事業所へ実習に行きました。地域・事業所の方々や保護者の皆様の御協力により、とてもよい実習を行うことができました。改めてお礼申し上げます。

生徒一人一人の頑張りはもちろん、課題や長・短所がはっきりした実習になりました。今後、各家庭で進路希望やその実現に向けての取り組みについて、十分に話し合っていたいただきたいと思います。我々も最大限サポートしていきますので、よろしくお願いいたします。



* 第3学年 *

進路指導部 佐藤 隆 夫

来春卒業を迎える3年生は、それぞれが卒後に希望する企業や福祉事業所での就労を前提とした実習を行いました。本人たちは、緊張と不安の中でそれぞれが力を出し切り、元気に学校に戻ってきましたが、保護者の皆様からの励ましや、1、2年生のとき、実習で新篠津村の皆さんから教わったことがとても大きな力になったことと思います。

卒業まで約3ヶ月程となりましたが、残りの生活が社会への良きステップになるよう、今後とも皆様の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。



交流学习

担当 松山 佳 樹

10月19日、交流学习が行われました。対面式の後には、各学科に分かれて新篠津中学校の生徒の皆さんに作業を体験してもらいました。写真は木工科の「ミニすのこ」製作の様子です。

ビデオレターの交換から始まった交流学习、始めは緊張している様子でしたが、作業学習を通して交流を深め、時間の経過とともに笑顔が見られ、自然と会話する場面も増えていきました。

交流学习を通して、挨拶などコミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができました。



新高祭 学年発表

* 第1学年 * 『解体屋』 ~ 「自分・青春・仲間」 ~ 1学年担当 中山 飛 鳥

1年生は初めての新高祭。舞台発表では、39人それぞれが一度しかない高校生活を楽しみ、頑張っている姿を見ていただきたいという思いがありました。短い練習期間で生徒たちは本当に良く頑張りました。劇中のダンスでは、細かい動きを確認しながら回数を重ねるごとに上達していきました。演技も生徒自ら観客に伝わる様にそれぞれがアレンジや声の大きさを考え、生き生きとした場面を作りあげていきました。苦手な取り組みだった生徒もいたはずですが、自分と向き合い、仲間と協力し、青春を感じた練習でした。最後は全員ダンスで39人、一つになって終えることができ、学年の絆が深まった舞台発表でした。



* 第2学年 * 『不便な便利』 ～「不便は便利」～ 2学年担当 近藤和也



昨年度は先人から「生きることは食べること。食べることは生きること」など、生き方を学んだ生徒たち。そこで今年は、未来を考えてみることにしました。便利と言われている現在ですが、さらなる便利は私たちに何をもたらししてくれるのか？本当の便利とは何か？などを考えながら、練習から取り組んだ生徒たち。昨年度以上に明るく、自分自身の将来ってどうなるのだろうという思いを、見ている人、そして自分自身に向けて伝える心の演技ができました。

2学年パワーこそ『最高の絆』であります！！

* 第3学年 * 『コンティニュー ～卒業後も残っていくもの・・・』

3学年担当 松本研司

「先生！今年は何やるの？（期待感ありあり）」始まる前から、やる気みなぎる3年生。練習が始まると、早めに各幕の練習場所に移動する生徒の姿が多く目につきました。ただ、通し練習の一回目は、修正箇所ばかりで全員が頭を抱えたのでした…。

しかし、誰もが諦めませんでした。学科の販売など、責任も増えている中で、修正を重ね、最高の演技を当日見せてくれたのです。舞台中、主人公が「俺、分かったかも！」と気付く場面がありました。

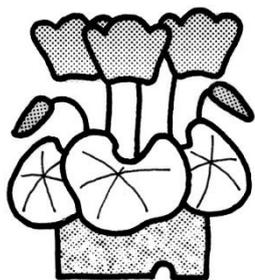
3年生一人一人が上演に向け一丸となり、何かに気が付くことのできた舞台発表になったのではと思います。



学校評議会

教頭 松岡達也

今年度2回目の学校評議会を11月22日(水)に開催しました。評議員5名全員の出席をいただき、今年度の教育活動や進路状況の報告、平成30年度の特別支援学校配置計画について説明・意見交換を行いました。



寄宿舎や教科学習の様子を参観していただいた後には、生徒会役員（伊藤龍翔会長、小畑華音・進藤恵也副会長）と舎友会（酒井海平会長、佐藤栄利香副会長）にも参加していただき評議員との懇談を行いました。評議員の方から選出方法や「どういふポイントで生徒会長に選出されたと思うか」との質問に、「この学校をどうしていきたいか伝えられたからだと思います」と生徒からははっきりとした口調で答えることができていました。また、「より良い世の中を作っていくためにも選挙に行ってください」との生徒への要望もありました。

評議員の方からは、多様な障がいに対応した掲示物などの工夫や、生徒指導の充実について要望がありました。今後の指導に反映させていきたいと思ひます。

次回の評議員会は、2月下旬を予定しています。

全国障害者スポーツ大会

担当 成松 智也



去る10月28日から3日間、愛媛県松山市で行われた第17回全国障害者スポーツ大会に陸上競技部から3年生の菅原選手、木下選手が北海道代表選手団の一員として参加しました。特に、2日目は台風による大雨と強風による影響で、2選手とも満足できる記録は残せませんでした。強豪チームの競技姿勢やレベルの高さに刺激を受けていたと同時に、北海道代表の他の選手やボランティアとの交流も良き思い出となりました。

新篠津卓球連盟会長杯卓球大会

担当 和佐 えりか

第24回新篠津卓球連盟会長杯争奪卓球大会に7名の生徒が参加しました。初めての大会の生徒も多く、とても緊張した様子でしたが、全員が練習の成果を発揮することができました。自分の試合が終わっても最後まで仲間を応援するなど、勝敗よりも大切な仲間を思いやる気持ちを学んでくれたと感じています。

今後も一緒に頑張れる仲間の大切さを感じながら、日々練習に取り組んでほしいと思います。

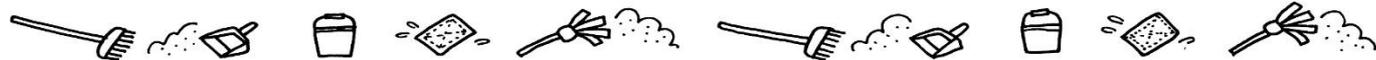


図書室より

「読書の秋」が過ぎ去り、明日から冬休みです。図書室では、「冬休み前特別貸出」を行い、本好きな生徒の皆さんが多数来室していました。

通常の図書の貸出は、図書委員が当番で貸出、返却業務を行っています。返却や当番を忘れていたりすると、校内放送で一躍、「時の人」に。12月7日（木）の昼休みには「図書委員による読み聞かせ」があり、『百万回生きたねこ』と『サラリーマン川柳』を発表しました。また、12月14日（金）には、ボランティアのぽこあぽこさんによる読み聞かせもあり、楽しいひとときを過ごすことができました。

図書室にあまり関心のない生徒の皆さんにも、身近に感じられるような図書室運営を今後も努めていきます。



《編集後記》 『師走』という言葉を知りただけで、なぜか気ぜわしさを感じてしまいましたが、今年も残すところ10日余り・・・年々1年があっという間に過ぎていくと感じます。クリスマスにお正月、心に余裕をもち季節の行事を楽しんで過ごしたいものです。

来年も素晴らしい1年になりますよう皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

